

安部哲夫先生略歴・主要著作目録

略 歴

- 一九五一年一月 福岡県にて出生
一九六九年四月 福岡県立小倉高等学校卒業
一九七四年三月 法政大学法学部法律学科卒業
一九七四年四月 法政大学大学院社会科学研究所修士課程入学
一九七七年三月 法政大学大学院社会科学研究所修士課程修了
一九七七年四月 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程入学
一九八〇年四月 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学
一九八〇年一〇月 常磐学園短期大学非常勤講師（犯罪学）
一九八一年四月 常磐学園短期大学専任講師（法学・犯罪学）
一九八三年四月 茨城大学教養部非常勤講師（法学、一九九三年三月まで）
一九八四年四月 慶應義塾大学法学部政治学科非常勤講師（刑事法、一九九三年三月まで）
一九八六年四月 常磐学園短期大学助教授（法学・犯罪学、一九九三年三月まで）
一九九三年四月 北陸大学法学部教授（刑法・刑事政策、二〇〇〇年三月まで）
二〇〇〇年四月 獨協大学法学部教授（刑法・刑事政策）

- 二〇〇〇年四月 青少年育成国民会議専門委員(二〇〇九年三月まで)
- 二〇〇一年四月 慶應義塾大学法学部非常勤講師(刑事政策、二〇〇六年三月まで)
- 二〇〇三年四月 常磐短期大学非常勤講師(法学・青少年法、二〇〇六年三月まで)
- 二〇〇三年四月 獨協大学法学部法律学科長(二〇〇五年三月まで)
- 二〇〇三年一〇月 水戸家庭裁判所家事調停委員(二〇一四年一月より参与員を兼務、現在に至る)
- 二〇〇四年四月 茨城県青少年健全育成審議会委員(委員長、二〇一六年三月まで)
- 二〇〇四年四月 草加市未来人(みらいびと)サポーター審議会委員(二〇〇六年三月まで)
- 二〇〇七年四月 慶應義塾大学法学部非常勤講師(刑事政策、二〇二二年三月まで)
- 二〇〇八年四月 国立武蔵野学院附属「児童自立支援専門員養成所」(現「国立武蔵野学院附属人材育成センター」)
非常勤講師(犯罪学、現在に至る)
- 二〇一〇年四月 常磐短期大学非常勤講師(法学・青少年法、二〇一六年三月まで)
- 二〇一〇年四月 内閣府若年者向け薬物再乱用防止に関する企画分析会議委員(二〇一三年三月まで)
- 二〇一二年四月 明治大学大学院法務研究科非常勤講師(犯罪学、二〇一六年三月まで)
- 二〇一二年四月 日本犯罪学会理事(現在に至る)
- 二〇一三年五月 長野県子どもを性被害から守る専門委員会委員(副委員長、二〇一四年三月まで)
- 二〇一四年四月 日本被害者学会理事(現在に至る)
- 二〇一五年二月 長野県子どもを性被害から守るための条例のモデル検討会委員(座長、二〇一五年九月まで)
- 二〇一五年四月 草加市情報公開・個人情報保護審議会委員(二〇一六年三月まで)

- 二〇一七年四月 東埼玉資源環境組合情報公開・個人情報保護審議会委員（二〇一九年三月まで）
二〇一七年四月 明治大学大学院法務研究科非常勤講師（犯罪学、二〇二二年三月まで）
二〇一七年九月 日本犯罪学会賞受賞
二〇一八年四月 法務省これからの更生保護に関する有識者検討会委員（座長代理、二〇一九年三月まで）
二〇二〇年九月 埼玉県再犯防止推進計画有識者会議委員（議長、二〇二二年三月まで）
二〇二一年三月 獨協大学法学部定年退職
二〇二一年四月 獨協大学名誉教授

所属学会

- 日本刑法学会（一九七七年五月から現在）
日本犯罪学会（一九七八年九月から現在）
日本被害者学会（一九九〇年一月から現在）

主要著作

【単著】

- 二〇〇二年 『青少年保護法』尚学社、二〇〇九年新版、二〇一四年新版補訂版

【共著】

- 一九八一年 『判例刑法研究第八卷・特別刑法の罪』 有斐閣（「児童福祉法・青少年条例」宮澤浩一と共著）
- 一九八一年 『刑法事典』 立花書房（青柳文雄ほか編、分担執筆）
- 一九八二年 『演習ノート・刑法総論』 法学書院（斎藤誠二編、分担執筆）
- 一九八四年 『女性犯罪』 立花書房（中谷瑾子編、分担執筆）「性と女性犯罪」
- 一九八四年 『講義刑事政策』 青林書院新社（宮澤浩一ほか編、分担執筆）「金銭的制裁（罰金と反則金）、被釈放者保護（更生保護）」
- 一九八五年 『法学リーディングス』 成文堂（宮澤浩一ほか編、分担執筆）「市民生活と安全」 九一年第二版
- 一九八七年 『思春期の性』 誠信書房（作田勉ほか編、分担執筆）「西ドイツ―性犯罪とポルノグラフィ―」
- 一九八八年 『法学―法と現代女性』 尚学社（木村實ほかと共著、分担執筆）「女性と刑法」
- 一九九二年 『現代法学入門』 尚学社（青柳幸一・笠原毅彦と共著、分担執筆）「第三部 現代社会と刑事法」 九五
年改訂版、九八年新版、二〇〇〇年新版第二版、〇四年新版第三版、〇六年新版第四版、一〇年新版
第五版
- 一九九五年 『現代法学双書・犯罪学』 青林書院（宮澤浩一ほか編、分担執筆）「常習犯罪者」
- 一九九五年 『現代性科学・性教育事典』 小学館（内山絢子ほか編、分担執筆）
- 一九九五年 『犯罪・非行事典』 大成出版社（所一彦ほか編、分担執筆）
- 一九九七年 『ゼミナール刑事政策』 法学書院（高橋則夫と共著）
- 一九九八年 『現代青林講義・刑事政策』 青林書院（加藤久雄ほか編、分担執筆）「猶予処分 of 現状と課題」

- 一九九八年 『児童虐待とその対策——実態調査を踏まえて』多賀出版（萩原玉味ほか編、分担執筆「わが国における対応策の考察」刑事的アプローチ）
- 一九九九年 『児童虐待——わが国における現状と課題』信山社（明治学院大学立法研究会編、報告「法的な視点からの対応策」）
- 二〇〇二年 『児童虐待防止法——わが国の法的課題と各国の対応』尚学社（岩井宜子編著、分担執筆「ドイツ——非刑罰的モデル」）
- 二〇〇五年 『ビギナーズ少年法』成文堂（守山正ほかと共著、分担執筆「8 家庭裁判所の役割」、「11 少年の権利保障」、「14 少年の福祉を害する成人事件」）〇八年第二版、〇九年第二版補訂版、一七年第三版
- 二〇〇八年 『ビギナーズ刑事政策』成文堂（守山正と共編著、分担執筆「5 刑事制裁（刑罰と処分）」、「10 財産刑」、「12 犯罪者の処遇」、「16（三）来日外国人犯罪」、「16（四）組織犯罪」、一一年第二版、一七年第三版
- 二〇〇八年 『ファミリィ・バイオレンス』尚学社（岩井宜子編、分担執筆「ドイツ・二〇〇二年男女間暴力被害者保護法、高齢者虐待の現状と法的対応」一〇年第二版
- 二〇〇九年 『ドイツ刑事法学の展望——大所高所からの視点』成文堂（川端博と監訳、分担翻訳「A・クロイツァー・究極の刑事政策的措置の展開について——ドイツにおける死刑、拷問、無期自由刑、保安監置」、「R・エッグ・社会治療——何処へ向かうのか？」）
- 二〇一四年 『性犯罪・被害——性犯罪規定の見直しに向けて』尚学社（女性犯罪研究会編、分担執筆「児童買春と児童ポルノの規制」）

二〇一六年 『リーディングス刑事政策』 法律文化社(朴元奎・太田達也編、分担執筆「第一六 矯正処遇の基本理念」)

二〇一九年 『ストーキングの現状と対策』 成文堂(守山正と共編著、分担執筆「第五章 ストーキングに対する法規制 II ストーカー総合対策と機関連携」)

二〇二〇年 『ビギナーズ犯罪法』 成文堂(守山正と共編著、分担執筆「1 『犯罪法』総説」、「3 身体の安全に関する犯罪」、「22 少年の福祉に関する犯罪」)

【主要論文】

一九七八年 「いわゆる『精神病質犯罪者』の処遇」『法政法学』九号

一九八一年 「西ドイツのラベリング論研究」『犯罪社会学研究』六号

一九八一年 「青少年条例による淫行規制の問題」『常磐短期大学研究紀要』一〇号

一九八三年 「女性による新生児殺の研究」『犯罪社会学研究』八号(内山絢子・小長井賀興と共著)

一九八三年 「教師による体罰と暴行罪の成否」『慶應義塾創立一二五年記念論文集——慶應法学会法律学関係』

一九八四年 「青少年保護育成条例と少年の人權」『少年非行(法学セミナー増刊・新権利のための闘争)』

一九八四年 「刑罰論」をめぐる国内研究動向」『犯罪社会学研究』九号

一九八五年 「青少年の性的保護と刑事規制の限界——『青少年保護育成条例』を中心に」『刑法雑誌』二六卷三・

四号

一九八五年 「風俗環境浄化に対する社会的統制形態——西ドイツの現状を中心に」『法律時報』五七卷七号

- 一九八七年 「夫婦間強姦の可罰性に関する考察——昭和六二年六月一日広島高裁松江支部判決を契機として——」
『常磐短期大学研究紀要』一六号
- 一九八九年 「住民の被害経験及び悪質商法に対する意識・態度（悪質商法に関する研究1）」『科学警察研究所報告
告防犯少年編』三〇巻一号（西村春夫ほかと共著）
- 一九八九年 「被害化過程及び被害者の特徴（悪質商法に関する研究2）」『科学警察研究所報告防犯少年編』三〇
巻二号（西村春夫ほかと共著）
- 一九九〇年 「悪質商法による被害化過程の事例研究」『科学警察研究所報告防犯少年編』三一巻一号（西村春夫ほかと共著）
- 一九九一年 「悪質商法の被害化要因に関する研究」『人間科学』八巻二号（諸澤英道と共著）
- 一九九三年 「有害出版物規制の法理」『常磐短期大学研究紀要』二二二号
- 一九九三年 「『少年福祉阻害犯』に関する序論的考察」『北陸法学』一卷一・二二号
- 一九九四年 「未成年者喫煙禁止法と青少年保護——『少年福祉阻害犯』としての側面からの検討」法律文化社『刑法学
の歴史と課題——吉川経夫先生古稀祝賀論文集』
- 一九九六年 「ドイツにおける被害者学の生成と発展」『被害者学研究』六号
- 一九九六年 「ラートブルフの行刑論——人間主義を原点として」『刑政』一〇七巻八号
- 一九九八年 「ドイツにおける被害者の救済・保護・支援」『被害者学研究』八号
- 一九九九年 「児童虐待の刑事法的対応について」『北陸法学』七巻一号
- 一九九九年 「犯罪被害者の権利・外国の動向（ドイツ）」『法律時報』七一巻一〇号

- 二〇〇〇年 「青少年保護育成条例による淫行規制の変遷と将来」成文堂『宮澤浩一先生古稀祝賀論文集第三卷』
- 二〇〇一年 「未成年者喫煙・飲酒禁止法の改正に向けて」『青少年育成研究』一号
- 二〇〇一年 「ドイツにおける青少年有害図書規制と連邦審査会」『獨協法学』五五号
- 二〇〇二年 「欧州犯罪学会（E S C）と第一回大会（ローザンヌ会議）」『犯罪と非行』一三三号
- 二〇〇二年 「拷問および非人道的で人間性を貶める処遇と刑罰を防止する欧州委員会（ヨーロッパの刑務所の状況について）——欧州犯罪学会（E S C）ニューズレター一巻二号から」『N C C D』二六号
- 二〇〇三年 「ストーカー規制法とD V防止法をめぐって」『法律時報』七五巻二号
- 二〇〇三年 「自動販売機と青少年保護」『青少年育成研究』三号
- 二〇〇三年 「ジェンダー刑事法学の展望」現代法律出版『二一世紀における刑事規制のゆくえ——中谷瑾子先生傘寿祝賀』
- 二〇〇四年 「児童虐待の実態と諸問題——児童虐待防止法（平成二二年）制定後の状況を中心に」『現代刑事法』六五号
- 二〇〇五年 「出会い系サイト規制法」の評価と課題——法施行後の状況を振り返る」『青少年育成研究』五号
- 二〇〇六年 「ゲーム・ケータイ・ネットのしつけ」『児童心理』八四五号
- 二〇〇七年 「ドイツにおける性犯罪者の社会治療処遇と研究動向管見——ルドルフ・エック博士の報告から——」『犯罪学雑誌』七三巻一号
- 二〇〇七年 「特定受刑者の処遇——高齢・外国人・女子・少年・薬物・暴力団・性犯罪受刑者を中心に」日本評論社『菊田幸一博士古稀記念・社会のなかの刑事司法と犯罪者』

- 二〇〇七年 「ドイツにおける社会治療処遇の展開と課題——ドイツ行刑施設等の参観から見えるもの」『法学研究』八〇巻一二二号
- 二〇〇八年 「行刑新時代への期待と課題」『犯罪と非行』一五五号
- 二〇〇八年 「ドイツにおける被害者支援の現在」『被害者学研究』一八号
- 二〇〇八年 「受刑者の社会復帰と施設内処遇の課題」『法律時報』八〇巻九号
- 二〇〇八年 「青少年社会環境と青少年保護法令の新展開——青少年の性的保護を中心として」『獨協法学』七十七号
- 二〇〇八年 「性情報に関する親と子のリテラシー」『児童心理』八八二号
- 二〇〇八年 「被収容者処遇法と更生保護法」『犯罪と非行』一六〇号
- 二〇一〇年 「なぜ児童ポルノは規制されるのか?——児童の性的虐待・偏執的趣味(ペドフェリア)からの保護」『法学セミナー』六七一号
- 二〇一一年 「平成二二年版犯罪白書を読んで——重大事犯者の実態と処遇から考える」『法律のひろば』六四巻一
号
- 二〇一一年 「奈良県『子ども安全条例』制定後の状況と法的課題」『法学新報』一一七巻七・八号
- 二〇一一年 「ドイツにおける青少年社会環境と青少年保護」『法学研究』八四巻九号
- 二〇一一年 「ドイツにおけるファミリーバイオレンスへの対応——私事から公的領域での問題解決へ向けて」尚学
社『刑法・刑事政策と福祉——岩井宜子先生古稀祝賀論文集』
- 二〇一三年 「刑事法の領域から考える『加害／被害』——被害者の権利・利益重視の時代における刑事司法」国際
書院『法文化叢書一一巻』

- 二〇一三年 「少年司法改革と保護思想の変容」『犯罪学雑誌』七九卷六号
- 二〇一四年 「再犯防止対策の推進と刑事政策の課題」『罪と罰』五一卷三号
- 二〇一五年 「ドイツの行刑における社会治療処遇の動向」『犯罪と非行』一七九号
- 二〇一六年 「平成二七年版犯罪白書を読んで——ルーテイン部分に関して」『法律のひろば』六九卷一号
- 二〇一六年 「我が国の法学部及びロースクールにおける犯罪学教育」『犯罪学雑誌』八二卷二二号
- 二〇一六年 「国際化と刑事政策」『罪と罰』五四卷一号
- 二〇一七年 「成人年齢基準と青少年保護法」『青少年問題』六六七号
- 二〇一九年 「児童虐待防止対策の現在と課題——児童福祉法・児童虐待防止法の改正後の状況を踏まえて——」『被害者学研究』一九号
- 二〇二〇年 「令和元年版犯罪白書を読んで——平成の刑事政策を振り返る」『法律のひろば』七三卷一号
- 二〇二〇年 「ファミリー・バイオレンスへの法的対応(1)児童虐待を中心に」『罪と罰』五七卷四号
- 二〇二〇年 「ファミリー・バイオレンスへの法的対応(2)配偶者暴力(DV)及び高齢者虐待について」『罪と罰』五八卷一号
- 二〇二一年 「平成の犯罪と令和への刑事法学(刑事政策)」『犯罪学雑誌』八七卷一・二号

【その他】

- 一九八〇年 書評「マイク・フィッツジェラルド著・長谷川健三郎訳『囚人組合の出現——イギリス囚人運動序説』」
(宮澤浩一と共著)『法学研究』五三卷七号

- 一九八一年 資料「犯罪学ジュルナル（一九六九—一九八〇）…著者名別・事項別論文目録」（宮澤浩一と共編）『法学研究』五四卷一〇号
- 一九八二年 資料「被害者学ビブリオグラフィ—ドイツ語文献」（宮澤浩一・諸澤英道と共編）『法学研究』五五卷三号
- 一九八二年 資料「被害者学ビブリオグラフィ—英語文献(1)(2)(3)」（宮澤浩一・諸澤英道と共編）『法学研究』五五卷五号、六号、七号
- 一九八三年 資料「少年非行とコントロール理論—Gerd Kirchhoffの講演をJohn P. J. Dussichのレポートから—」『常磐短期大学研究紀要』一二号
- 一九八三年 書評「犯罪学研究会編・犯罪学辞典」『法律時報』五四卷六号
- 一九八三年 書評「C・グリフィスほかCriminal Justice in Canada」『法学研究』五六卷六号
- 一九八三年 紹介「Symposium on Victimology in JCC」『アメリカ法』一九八三—
- 一九九二年 資料「ドイツの有害環境規制散見—BPSレポート91から—」『常磐短期大学研究紀要』一二号
- 一九九五年 刑政時評「刑事政策と大学教育」『刑政』一〇六卷五号
- 一九九五年 刑政時評「ラートブルフの行刑論に学ぶ」『刑政』一〇六卷一〇号
- 一九九六年 刑政時評「煙草の販売規制と青少年保護」『刑政』一〇七卷四号
- 一九九六年 刑政時評「児童虐待から考える」『刑政』一〇七卷一〇号
- 一九九九年 判例研究「児童福祉法三四条一項六号の『淫行させる』行為の意義」『北陸法学』七卷二号
- 二〇〇〇年 資料「韓国青少年保護法（仮訳）」『北陸法学』七卷四号（金容世と共訳）

- 二〇〇〇年 報告書『青少年を取り巻く有害な社会環境の抜本的改善に向けて——地域住民運動の進め方と法整備の方向について』（分担執筆、「青少年保護育成条例の展開と課題」）
- 二〇〇〇年 『ドイツの少年法管見』『三田評論』一〇二五号
- 二〇〇一年 シンポジウム「子どもの権利と社会環境」『青少年』三四二号
- 二〇〇二年 報告書『青少年有害環境対策推進研究報告書』（分担執筆、「環境浄化のための重点的な取組」にみられる特徴）
- 二〇〇二年 特集「子どもたちを取り巻く社会環境——酒、タバコ、コンビニ、カラオケボックス、ゲームセンター等——」『青少年』三五〇号
- 二〇〇四年 座談会「青少年法案をどう見るか」『法律時報』七六卷九号
- 二〇〇四年 評論「未成年者喫煙禁止法と青少年の保護育成」『週刊教育資料』八七四号
- 二〇〇五年 報告書『青少年育成国民会議・平成一六年度青少年と社会環境に関するブロック・中央大会報告書』（分担執筆、「青少年と彼らを取り巻く社会環境に関して」）
- 二〇〇五年 報告書『青少年育成国民会議・青少年育成国民運動実践調査研究事業報告書』（分担執筆、「地域で担うメディア・リテラシーの取組み——その実践と課題」）
- 二〇〇五年 報告書『青少年育成国民会議・平成一六年度青少年有害環境対策推進研究報告書』（分担執筆、「調査結果の概要」、「提言・青少年と有害図書接触環境」、「有害図書関連施設の現地視察から」）
- 二〇〇五年 報告書『平成一四年度～一六年度科学研究費補助金研究成果報告書・家庭内暴力の実態と対策に関する研究——殺人・傷害致死事例の分析から』（分担執筆、「女性による殺人事例の特性」）

- 二〇〇六年 コラム「子どものメディア環境をめぐる行政と条例の動き」『子ども白書二〇〇六』
- 二〇〇六年 報告書『青少年育成国民会議・青少年育成国民運動実践調査研究事業報告書』（分担執筆、「地域の子」ともと大人の意識改革——郷土の中での子どもの育成を目指して（大分県佐伯市実施委員会）」
- 二〇〇六年 報告書『青少年有害環境対策推進研究報告書・青少年とゲームに関する調査』（分担執筆、「調査結果の概要」）
- 二〇〇七年 評論「子どもの喫煙防止に向けた事業者の取り組みと未成年者喫煙禁止法」業界誌『たばこ塩産業』一月一五日号
- 二〇〇七年 報告書『青少年育成国民会議・平成一八年度青少年有害環境対策推進研究報告書（青少年と夜間外出）』（分担執筆）
- 二〇〇七年 資料「オランダの社会治療処分 その現状と課題——ペーター・タック教授の講演から」『獨協法学』七三号
- 二〇〇八年 報告書『茨城県青少年健全育成審議会・青少年のコミュニケーションと関係づくり——青少年のケイタイとコミュニケーションに関する調査報告書』（分担執筆）
- 二〇一〇年 判例研究「執行猶予取消しに係る保護観察遵守事項違反の『その情状が重いつき』にあたるかと判断された事例——東京高裁平成二二年三月五日第七刑事部決定」『刑事法ジャーナル』二二五号
- 二〇一〇年 「宮澤浩一先生のご逝去を悼む」『犯罪学雑誌』七六卷六号
- 二〇一一年 報告書『平成二二年度スペインにおける青少年の薬物乱用対策に関する企画分析報告書内閣府』（分担執筆、「スペインの薬物乱用対策から学ぶもの」）

二〇一二年 報告書『内閣府・アメリカにおける青少年の薬物乱用対策に関する企画分析報告書』(分担執筆、「治療的司法の可能性——青少年の薬物乱用と日本型ドラッグコートの模索」)

二〇一三年 報告書『内閣府・若年者向け薬物再乱用防止プログラムに関する計画分析報告書』(分担執筆、「薬物濫用犯罪(自己使用)の非刑罰化へ向けた司法改革」)

二〇一三年 書評「川出敏裕・金光旭著『刑事政策』成文堂(二〇一二年)」「犯罪と非行」一七六号

二〇一四年 コラム「『犯罪学』という学問」『獨協大学学報』三〇号

二〇一五年 「特集・刑事司法教育における犯罪学的位置・企画趣旨」『犯罪学雑誌』八一巻六号

二〇一六年 「巻頭言 性刑法の改革と被害者の視点」『被害者学研究』二六号

その他

【所属学会における主な報告】

一九九九年 「児童虐待と刑事規制(ワークショップ)」オーガナイザー(日本刑法学会第七七回大会)『刑法雑誌』

三九巻二号(二〇〇〇年)

二〇〇〇年 「児童虐待と青少年保護の周辺(ワークショップ)」オーガナイザー(日本刑法学会第七八回大会)『刑法雑誌』四〇巻二号(二〇〇一年)

法雑誌』四〇巻二号(二〇〇一年)

二〇〇〇年 「未成年者喫煙・飲酒防止法の改正へ向けて」(日本青少年育成学会第一回研究集会)

二〇〇二年 「ジェンダーと刑事法(ワークショップ)」オーガナイザー(日本刑法学会第八〇回大会)『刑法雑誌』

四二巻二号(二〇〇三年)

- 二〇〇三年 「出会い系サイト規制法の成立と課題」（日本青少年育成学会第四回研究集会）
- 二〇〇四年 「出会い系サイト規制法」施行一年を振り返る」（日本青少年育成学会第五回研究集会）
- 二〇〇七年 「性刑法の改革（ワークシヨップ）」オーガナイザー（日本刑法学会）『刑法雑誌』四七巻三号（二〇〇八年）
- 二〇〇七年 「児童虐待の防止へ向けて」共同研究・司会（日本被害者学会）『被害者学研究』一八号（二〇〇八年）
- 二〇〇八年 「顕在化、機能化、規範化の視点から」コメンテーター（日本犯罪社会学会主催第五回公開シンポジウム）日本犯罪社会学会編『ファミリー・バイオレンスにどう対応するか』尚学社（二〇〇九年）
- 二〇〇九年 「Child Sexual Victimization and Legal Regulations in Japan—Trends and Issues in the last ten Years」第一三回国際被害者学シンポジウム（常磐大学）
- 二〇一一年 「Current Issues on Sexual Abused Children and Regulation against Child Pornography: Why Do We Control Child Pornography?」第一三回世界犯罪学会（神戸市）
- 二〇一一年 「裁判員裁判と犯罪学」第四八回日本犯罪学会総会シンポジウム・オーガナイザー『犯罪学雑誌』七八巻二号（二〇一二年）
- 二〇一二年 「振り込め詐欺の被害者学的研究」日本被害者学会第二三回学術大会シンポジウム・オーガナイザー『被害者学研究』二三号（二〇一三年）
- 二〇一三年 公開シンポジウム「家族崩壊・児童虐待の現状と対策を考える」コメンテーター（第五〇回日本犯罪学会総会）日本犯罪学会Ⅱ（公財）日工組社会安全財団『家族崩壊・児童虐待の現状と対策を考える』報告書（二〇一四年）

- 二〇一四年 「犯罪学と教育」ビデオ・ウェブセッション 座長(第五一回日本犯罪学会総会) Video Session: Education of Criminology for Judicial Experts『犯罪学雑誌』八一巻三号(二〇一五年)
- 二〇一五年 「我が国における女性犯罪(者) 研究の軌跡」ワークショップ「女性犯罪者に対する刑事政策」(日本刑法学会第九三回大会) 『刑法雑誌』五五巻三号(二〇一六年)
- 二〇一七年 「犯罪学の更なる発展に向けて——学際的・実践的連携を考える／裁判員裁判の鑑定について」シンポジウム・コメンテーター(第五四回日本犯罪学会総会) 『犯罪学雑誌』八四巻三号(二〇一八年)
- 二〇一七年 「刑事政策研究の将来と研究者の養成(ワークショップ)」(日本刑法学会第九五回大会) 『刑法雑誌』五七巻三号(二〇一八年)
- 二〇一九年 「再犯と再犯防止(再犯をめぐる政策の動き)」第五六回日本犯罪学会総会シンポジウム座長 『犯罪学雑誌』八六巻二号(二〇二〇年)
- 二〇二〇年 「平成の犯罪と令和への刑事法学(刑事政策)」第五七回日本犯罪学会総会シンポジウム「平成の犯罪学と令和への犯罪学」『犯罪学雑誌』八七巻一・二号(二〇二一年)

【講演】

- 一九八八年 「青少年保護の理念と環境規制の諸問題——二一世紀への非行予防対策のために」茨城県青少年相談員連絡協議会・非行防止対策地域研究会(茨城県いこいの村澗沼)
- 二〇〇一年 「有害図書規制の法理——ドイツの状況を参考にして」青少年育成国民会議・青少年と社会環境に関する中央大会(代々木、青少年総合センター)

- 二〇〇一年 「青少年を取り巻く社会環境への対応と地域活動」三重県非行防止関係者合同研修会（津市）
- 二〇〇一年 「性と暴力——大人はどう変われるか」福島県青少年健全育成推進大会（福島市）
- 二〇〇二年 「有害環境の実態と対応策の課題」平成一四年度茨城県市町村青少年問題協議会委員・青少年相談員及び青少年育成関係者等合同研究会（水戸市）
- 二〇〇三年 「青少年を取り巻く社会環境の現状——ビデオと自動販売機の問題を中心として」青少年と社会環境に關する北海道・東北ブロック大会（青森市）
- 二〇〇三年 「青少年有害環境問題の現状と課題」岩手県青少年育成指導者研修会（盛岡市）
- 二〇〇三年 「近時少年非行の背景と防止対策」愛知県市町村青少年施策主管課長会議（名古屋市）
- 二〇〇三年 「電子メディアと子どもたち」広島市青少年健全育成市民大会（広島市）
- 二〇〇三年 「情報メディアと青少年の性行動」青少年健全育成中央フォーラム（和歌山市）
- 二〇〇三年 「青少年を取り巻く有害社会環境対策の推進活動——今、青少年育成推進員に出来ることは？」青少年育成推進四市（岩槻・越谷・春日部・草加）合同研修会（草加市）
- 二〇〇四年 「青少年社会環境の浄化をめぐる」（基調講演）糸満市青少年育成国民運動実践調査研究事業シンポジウム（糸満市）
- 二〇〇四年 「有害環境と青少年の保護育成——法的基盤づくりと地域活動の活性化」富山県青少年育成国民運動推進指導員全体研修会（富山市）
- 二〇〇四年 「電子メディア・テレビと青少年の保護育成」山口県青少年育成県民会議総会（山口市）
- 二〇〇四年 「青少年と彼らを取り巻く社会環境に關して」（基調講演）青少年と社会環境に關する九州ブロック大

会(鹿児島市)

- 二〇〇五年 「青少年と保護者の意識から社会環境問題を考える」茨城県県北市町村青少年問題連絡協議会(水戸市)
- 二〇〇五年 「青少年社会環境と地域活動の課題」茨城県青少年育成県民会議年次大会(水戸市)
- 二〇〇五年 「青少年と有害環境の諸問題——二〇〇五年の問題点検と克服のために」有害環境連絡協議会関東中信越静ブロック大会(静岡市)
- 二〇〇五年 「子どもの自立と大人社会の責任」茨城県青少年相談員研修大会(水戸市)
- 二〇〇六年 「子どもの安全と青少年条例の整備」青少年育成国民会議・青少年と社会環境に関する中央大会(代々木、青少年総合センター)
- 二〇〇六年 「青少年と有害情報——家庭・地域で取組むために」京都府青少年育成県民会議(京都市)
- 二〇〇七年 「Jugendmedienschutz in Japan 2007——Heutige Situation von der gesetzlichen Kontrolle und der Selbstkontrolle über die Medien und die soziale Umgebung von Jugendlichen(青少年のためのメディア対策について——日本における法的規制と自主規制の今日的状況)」二〇〇七年度日独青少年指導者セミナー『青少年とメディア』(代々木、青少年総合センター)
- 二〇〇七年 「インターネット社会と青少年——青少年社会環境対策の観点から——」平成一九年度愛媛県青少年の非行問題に取り組む県民大会(松山市)
- 二〇〇七年 「子どものメディア環境…テレビゲームとのいい関係を目ざして」野々市町メディア・フォーラム
- 二〇〇七(石川県野々市町)
- 二〇〇八年 「ドイツにおけるケータイ・インターネットの規制と教育」モバイル社会シンポジウム二〇〇八(二元

赤坂、明治記念館)

二〇一〇年 「青少年を取り巻く情報空間（テレビ・ケータイ・ゲーム・インターネット）と青少年の育ちについて考える」 埼玉県和光市青少年育成講演会（和光市）

二〇一一年 「刑事法の領域から考える加害／被害―被害者の権利・利益重視の時代における刑事司法」第一四回
法文化学会研究大会（日吉、慶應義塾大学）

二〇一二年 「子どもに対する『性的虐待罪』の創設について」専修大学法学研究所主催公開シンポジウム『性暴力の実態を踏まえ今後の日本の性犯罪規定のあり方を展望する』（神田、専修大学）

